



総務省総合通信基盤局電気通信事業部
電気通信技術システム課長

藤田 和重 Kazushige FUJITA

平成 3年 4月 郵政省採用
同 放送行政局技術課
平成 5年 7月 同 電気通信局電波部移動通信課
平成 6年 7月 同 電気通信局電波部移動通信課第二技術係長
平成 8年 7月 同 通信政策局技術政策課開発係長
平成 9年 7月 同 大臣官房国際部国際政策課課長補佐
平成 10年 5月 在ハンガリー日本国大使館二等書記官
平成 13年 4月 同 一等書記官
平成 13年 6月 総務省総合通信基盤局国際部国際政策課課長補佐
平成 13年 7月 同 総合通信基盤局電気通信事業部事業政策課課長補佐
平成 15年 8月 同 総合通信基盤局電波部電波政策課電波利用料企画室課長補佐
平成 17年 8月 同 情報通信政策局通信規格課課長補佐
平成 19年 7月 文部科学省研究開発局宇宙開発利用課宇宙開発連携協力推進官
平成 21年 7月 総務省情報通信国際戦略局技術政策課企画官
平成 23年 7月 同 情報通信国際戦略局通信規格課企画官
平成 24年 8月 東京工業大学ソリューション研究機構特任教授
平成 27年 8月 総務省情報通信国際戦略局通信規格課長
平成 28年 6月 国立研究開発法人情報通信研究機構オープンイノベーション推進本部イノベーション推進部門長
平成 30年 7月 現職



通信ネットワークの安全・信頼性を守るために

■ 現在の職務

私が勤務している電気通信技術システム課では、電気通信事業者が設置する通信ネットワークやユーザが利用する端末機器の技術基準に関する業務を担当しています。

携帯電話に代表される通信サービスは、今や電気、ガス、水道などと同様に人々の生活に不可欠な社会インフラとなっており、特にスマートフォンは国民のライフラインとしての重要性がますます高まっています。自然災害や通信設備の故障などにより通信障害が発生すると、経済活動や社会生活に大きな影響が生じてまいりますので、そのような状況を防ぐことが重要な政策課題となっています。

このため、通信ネットワークには非常用電源や予備機器の設置など様々な技術基準が定められていますが、その内容について、最新の技術動向や実際に発生した通信事故の実例などを踏まえつつ、外部有識者の協力も得ながら継続的に検討を行っています。また、災害時における通信サービスの確保に向けて、平素から体制を確認し、より適切な対応を行うことができるように関係の電気通信事業

者との間で連絡会を設置したり、通信ネットワークの更なる高度化のための新技術導入に向けた研究開発プロジェクトを推進したりするなどの取組を行っています。

■ これまでを振り返って

学生時代に就職活動の時期になり、自分が何のために働くのか、という問いを突き詰めた結果、私企業ではなく国家のために働きたいと考え、国家公務員を志しました。そして、縁あって当時の郵政省に採用していただき、それから約27年が経過しました。中央省庁では、概ね2年毎に人事異動があるのが一般的で、放送、移動通信、事業政策、技術政策等の担当部署において、許認可、制度改革、予算要求・執行、審議会・懇談会の報告書取りまとめ等の業務に従事してきました。

ICT分野の政策検討は、専門的かつ世の中の最先端の事項を扱うことが多いため、その時々と与えられたミッションは、いずれも答えが簡単に見つかるものではなく、大変な場面も多々ありましたが、公務員としての「公平性」を根本的なものさしとして、少しずつ対応案を

考え、関係者と調整しながら前進していくことで、百点満点ではないにせよ、何とかミッションをクリアした時の達成感は大きく、しばらく続く苦労と一瞬の喜びの繰り返しでここまで来たような気がします。

また、この間、外務省(在外公館)、文部科学省、東京工業大学などへの出向も経験しましたが、いずれの出向先でも、環境や文化が異なる職場において、総務省では経験できない事がたくさんあり、自分を高めることのできる貴重な体験だったと思っています。

■ 就職活動中の皆さんへ

就職活動は、これからの人生の大半の時間を費やすことになる自分の職業を見極める大切な作業だと思います。この限られた紙面では、国家公務員として総務省で働くことの魅力を伝えきれないかもしれませんが、少しでも興味を持っていただけた方は、「百聞は一見に如かず」ですので、ぜひ、一度総務省を訪問して、諸先輩からいろいろな話を聞き、その目で確かめて下さい。総務省と相思相愛になられた皆さんと一緒に仕事ができる日を楽しみにしています。

若手職員の声



総合通信基盤局電気通信事業部
電気通信技術システム課

中山 貴博

(平成30年度入省)

電気通信技術システム課は、私たちの生活に不可欠な通信ネットワークの安全・信頼性を確保するため、通信事業者の設備や私たちが利用している端末に基準を定め、設備故障や自然災害による通信障害発生時には迅速に情報収集を行い、業界全体を含めた再発防止策を事業者と共に考えていくといった業務を行っています。

私は中でも技術基準等の環境整備を担当しており、普段は通信事業者の技術担当の方々と打合せをしたり、審議会の運営などを行っています。

藤田課長は、常に利用者目線を忘れず、本質を捉えながら論理を組み立て、素早く問題を解決して下さいます。また、課内全体に対し常に気を配り、若手職員の相談にも丁寧に対応して下さいます。そんな課長の下、課内の雰囲気は明るく活気があり、風通しの良さを非常に感じる職場です。

専門的で難しい部分もありますがやりがいのある業務と尊敬できる先輩方と共に課内一丸となって、日々職務に励んでいます。

PROJECT

IoT時代の通信ネットワークの技術基準の検討

近年、身の回りのあらゆる「モノ」がインターネットにつながる「Internet of Things (IoT)」が広く社会に普及しつつあり、今後、国民生活や企業の社会経済活動に対する影響力は、より一層大きくなっていくものと考えられます。

こうしたIoTサービスの普及に伴い、それを支える通信ネットワークについても、高度なソフトウェア技術を駆使して柔軟な制御を可能とする「ネットワーク仮想化技術」の検討・導入が急速に進展しています。

このような中、今後導入される様々なIoTサービスを安心して安定的に利用できるネットワーク環境を確保することを目的として、情報通信審議会の下に設置された「IPネットワーク設備委員会」において、現行の電気通信設備の技術基準や関連制度について検証を行うとともに、今後の通信ネットワークの技術基準等の在り方について検討を進めています。